

直言

私は九州の3期目の市議員。私の住むマンションで先に行われた防火訓練の中で、家族防災会議の取り組みを垣間見る出来事があった。

当日、市消防署員が「消火器の使い方のポイントは？」と参加者に質問すると、母親に連れられた小学生が「ピンキオ！」と即答。「ピンを抜く。ノズルをかまえる。キョリ(距離)をとる。(レバーを)オ(押)す」と誇らしげに解説も加えた。

続いて「避難する時に何が大事？」との質問。母親から

「自助」意識育てる家族防災会議

「これも知っているわね」と促され「おはしもつ！」(押さない、走らない、戻らない)。このやり取りから、家庭における家族防災会議の光景が目に見え、地域での防火訓練参加も会議の一環だったのかもしれない。

東日本大震災では、多くの児童・生徒が犠牲になった。この反省から文部科学省では、全国共通で子どもが自ら危険を回避できる能力を育ていく方針だという。

学校の防災教育は大事だが、それに頼るだけでは子ども命は守れない。「自助」意識の向上につながる日常的な家族防災会議の普及・啓発を推し進めていきたい。(S)